

# 令和3年度福島県高等学校PTA広報誌コンクール結果

## 1 県広報紙コンクール参加校

地区名	各地区代表校名		
県北	保原高校	福島東高校	福島南高校
県南	須賀川桐陽高校	清陵情報高校	光南高校
会津	若松商業高校	喜多方高校	喜多方桐桜高校
相双	相馬農業高校	ふたば未来高校	原町高校
いわき	小名浜海星高校	平工業高校	湯本高校

## 2 東北コンクール代表校（3校）

保原高校 あぶくま 第102号

小名浜海星高校 PTA会報 創刊号

若松商業高校 明浄 第70号

## 第25回県高等学校PTA広報誌コンクール講評

福島民友新聞社 石川 浩

### 総評

学校での出来事をできるだけ大勢の保護者や家族に伝えたい、とPTA広報誌は編集されていると思います。ここで、伝える対象が誰なのか、しっかり把握する必要があります。PTA活動への関心は濃淡があると思います。我が子の成長に関心はあるが、仕事が忙しくPTA活動になかなか関われない層が多数を占めていると思います。こういった層にも届く広報誌づくりを目指すには、「おや！」と広報誌を手にとってもらえなければ、どうしようもありません。

そこで、一番鍵を握るには表紙、1面です。つまんなそうなフロント（1面）だと、ちらっと眺めただけで、手にとってもらえずスルーされてしまいます。手にとってもらえるかが、勝負の分かれ目です（ちょっと大げさですが、新聞制作も同様です）。つまんなそうな1面は、はっきり言うとあいさつばかり載っている1面です。PTAの大多数は、我が子には関心はあるが、校長先生などのあいさつには興味がありません。あいさつ文の掲載場所は、1面にこだわる必要はないと思います。

広報誌づくりは「何を誰に伝えたいのか」まずはっきりさせること。複数ある

と思いますので、優先順位を付け、一番伝えたいことを大きくしっかり扱うことが大切です。頁数が少ない場合は1面からトップニュースを扱うこととなります。見出しがイベント名だけだと、ちょっとつらいです。PTAの大多数は「この記事は、どういうニュース価値があるのか」と疑問に思います。「新聞部、全国制覇の快挙」「実習、学んだ思いやり」などニュースの意味づけが分かる見出しを付けたい。

それから写真も、生徒が生き生きしている様子が望ましい。写真選びも手間を掛けたい。あと写真のエトキ（写真説明）も必要です。PTAの大多数は、PTA役員等には自明の行事も、よくわからないのでエトキが欠かせません。生徒のコメント等を付けるのも良いです。原稿自体は長々書く必要はありません。中面の内容を伝えるインデックス（目次）も1面に必須です。

広報誌づくりは1面を重視してくださいということです。1面がつまんなければ、手に取ってもらえず、紙面制作の苦労が水の泡になってしまいます。今回のPTA広報誌の中で、小名浜海星と保原が高得点でした。どちらもA4サイズです。1面は表紙（口絵写真）のみでしたが、ここで両校に差がついたと思います。太平洋をバックに旧小名浜と旧いわき海星の2校舎を捉えた雄大な写真は、創刊号にふさわしい。撮影に手間も掛かったと思います。しっかり「小名浜海星高入門」などの特集や記事内容を示すインデックスも押さえています。保原も特集記事の案内は入っていましたが、その他のインデックスはなく頁数案内がなかったのは、小名浜海星とのわずかな差になったと思います。福島東はタブロイド版4頁の見本のような紙面構成でした。